

オカモトツヤアナハネムシ *Pedilus okamotoi* (Kôno)

【選定理由】

本種は全国的にも稀少な種であり、生息地も局地的な種である。生息地は通常豊かな自然林内に限られ、周辺の伐採やそれに伴う乾燥化に対して減少することが危惧される。

【形態】

体長 7.5～9.5mm。全身黒色でツヤがあり、雄の上翅後方に強い裂開状の彫刻がある。触角は雄で櫛ヒゲ状、雌は単純。

【分布の概要】

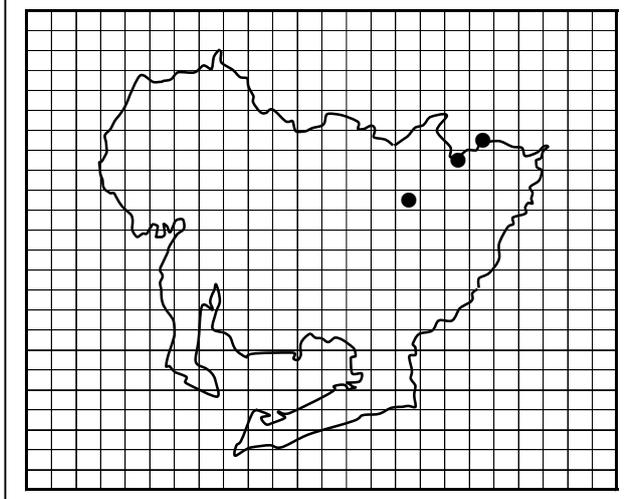
【県内の分布】

設楽町（山崎，1978）、豊田市（旧稲武町）（蟹江，1989）から記録され、ほかに豊根村からの情報がある。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

生息地は自然林内の谷筋などの湿潤な環境に限られる。成虫は 6 月に現れ、下草上を緩やかに飛翔し苔むした古い倒木に集まる。幼虫はブナ類などの腐朽した倒木に穿孔し、小動物を捕食したり時には菌類を食べたりしているものと思われる。

【現在の生息状況／減少の要因】

本種の生息には豊かな自然林と湿潤な環境が欠かせない。近年ではクワガタムシの採集のためにブナなどの倒木や朽ち木を破壊する行為が目立ち、本種ならびにこれらを食樹とする多数の貴重な昆虫たちの生息を脅かしている。

【保全上の留意点】

豊田市稲武町では県道に面する林縁の伐採について配慮が必要である。林縁の灌木は林内へ直接風が吹き込むのを和らげ排気ガスの進入を防いでいる。

【引用文献】

山崎隆弘，1978. 三河地方で採集した珍しい甲虫. 三河の昆虫, 3: 9-11.  
蟹江 昇，1989. 愛知県面ノ木峠で採集した甲虫. 佳香蝶, 41 (157): 7-10.

【関連文献】

大平仁夫ほか，1996. 第 7 章 昆虫類. 第 1 節 昆虫綱 コウチュウ目. 稲武町史 -自然- 資料編: 180-266.  
大平仁夫ほか，1996. 第 5 章 第 4 節 (8)コウチュウ類. 設楽町誌 -自然編- 資料編: 449-551.  
穂積敏文，1990. 愛知県の甲虫 (II). 愛知県の昆虫, (上): 232-308. 愛知県.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)